平成２９年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立矢田中学校

平成３０年３月

（様式１）

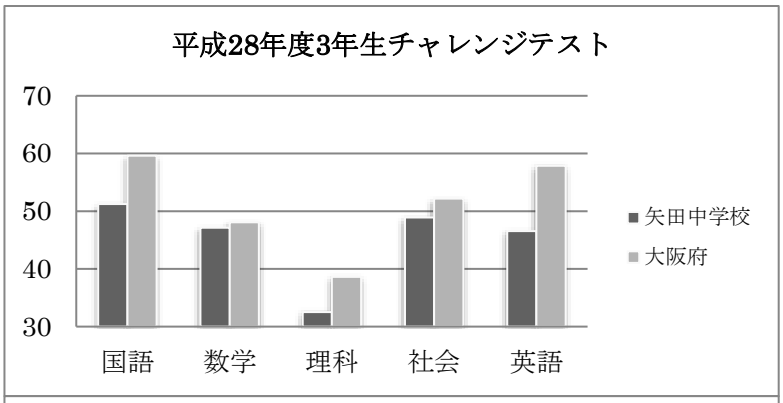
大阪市立矢田中学校　平成２９年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

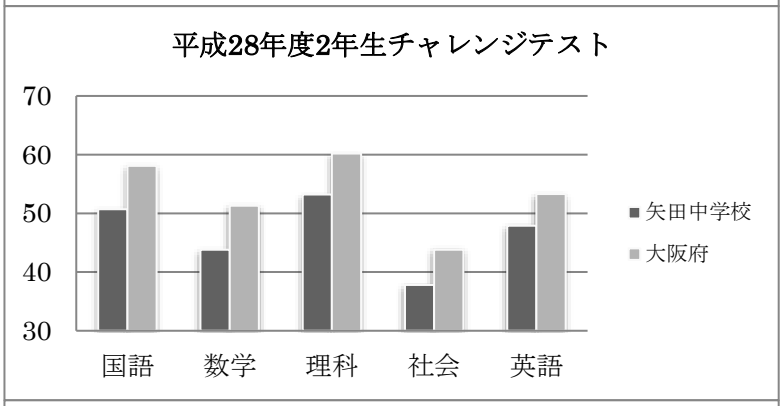
1　学校運営の中期目標

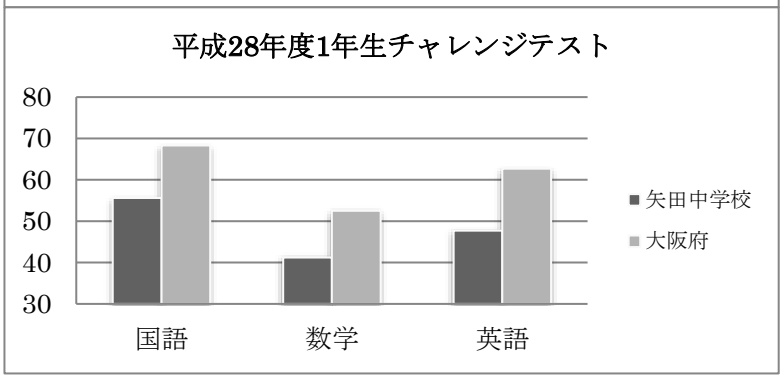
現状と課題

本校で昨年７月に発覚した「いじめ」事案とその後の取組は、本校のみならず大阪市全体を揺るがす教育課題として存在している。本校においてその問題の解決が何よりも優先する課題である。

学校の客観的現状に目を向けると、生活保護率は 20%、生活保護を含めた就学援助率は 58%、両親がそろわない生徒の率が 38%と大阪市平均に比べて極めて厳しい状況がわかる。また、30 日以上欠席している生徒の割合は、昨年度の２年生で 17.1%、１年生で 12.3%、と全国と比較して５倍、大阪市と比較しても３倍と、極めて高い状況にあり、100 日以上の欠席者も８名（4.8%）となっている。この数値を見ると、７月に発覚した事案も氷山の一角である可能性を疑われる状況である。遅刻者も年間で 2000 人を超えており非常に多い状況である。







学力の状況をみると、昨年度の大阪府チャレンジテストにおいて、国語の府比は３年生－14.1、２年生－12.8、１年生－18.6 ポイント、数学の対府比は、３年生－1.9、２年生―14.6、３年生－21.5 ポイント、英語の対府比は、３年生－15.1、２年生－10.1、１年生－24 ポイントと３年生の数学を除けば、いずれも 10 ポイント以上低い状態であり、その傾向は、低学年になるほど大きくなっている。

また、昨年度の体力テストの結果をみると、総合点で男子において大阪市を 2.1 点上回り、全国も 0.8 点上回っている。女子においては、全国平均を－2.4 点、大阪市平均を－1.4 点と少し下回る程度であった。

学力的には、大きな課題があるが、体力的には全国と比較してもそん色ない結果だといえる。いずれにしても生徒の安心安全の確保と学力の向上が本校の緊急の課題である。

一方、生徒の安心安全にかか

わっては、築４３年を経過した校舎は、老朽化が進み特にトイレの衛生状態や、管理状況が課題となってきている。また、閉鎖する教室やフロアーもあり、安全管理上問題もある。

生徒の健康面でも、6 割近い就学援助率があるにもかかわらず、虫歯の治癒率は 2 割にも達しておらず、生徒たちの健全な成長を考えると問題である。その他、基本的生活にかかわって、睡眠習慣の問題や食習慣の問題も大きく、地域保護者を巻き込んだ総合的な取組を構築していく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○　平成 29 年度～32 年度の年度末までのいじめアンケートで、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年 100%にする。

○　平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活が送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成 28 年度より 8%向上させる。

○　平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査において不登校の生徒の割合を、4 年間で 20%削減させる。

○　平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査において遅刻の生徒の割合を、4 年間で 20%削減させる。

○　平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を毎年 100%とする。

○　平成 32 年度の学校評価保護者アンケートの「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目の肯定的な意見を示す割合を 80%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○　平成 33 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 70%以上（28 年度 62.8%）にする。

○　平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 8%向上させる。

○　平成 32 年度の学校評価アンケートにおける「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 8%向上させる。

○　平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の無答率を、大阪市平均を下回らないようにする。

○　平成 33 年度の全国学力・学習状況調査の正答率 30%以下の生徒の割合を昨年度より 8%削減する。

○　平成 32 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点が、大阪市平均を下回らないようにする。

○　平成 32 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 35%以上にする。

○　平成 32 年度の全国体力・運動能力・運動習慣等調査において合計点が、全国平均を下回らないようにする。

○　平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査においてむし歯の受診率を 4 年間で 20%向上させる。

○　平成 29 年度～32 年度の年度末までの校内調査において給食のアレルギー事故を０とし、残食量を毎年５%削減する。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

○　平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

○　平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

○　平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

○　平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校の年度目標

○　平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活が送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成 28 年度より 2%向上させる。

○　平成 29 年末に時点で校内調査において遅刻の生徒の割合を、昨年度より 5%削減させる。

○　平成 29 年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を毎年 100%とする。

○　平成 29 年度の学校評価保護者アンケートの「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目の肯定的な意見を示す割合を 65%以上にする。

○　校舎の 1 階部分を地域開放スペースとして、土曜寺子屋や、放課後学習会、子ども食堂などに積極的に利用し学校の課題解決に活用していく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○　平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。

○　平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント減少させる。

○　平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 6 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 5 ポイント増加させる。

○　平成 29 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。

○　平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より 2 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

○　平成 29 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 64%以上（28 年度 62.8%）にする。

○　平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。

○　平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。
○　平成 29 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 29%以上にする。
○　平成 29 年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。
○　平成 29 年度末までの校内調査においてむし歯の受診率を昨年度より 5%向上させる。
○　平成 29 年度の年度末までの校内調査において給食のアレルギー事故を０とし、残食量をできるだけ少なくする。
○　区役所や民間の塾と提携して、社会開放スペースを利用おいて、休日や放課後に塾代助成を活用した取組を実施していく。
○　地域、保護者と連携し、社会開放スペースを利用して、子ども食堂など、生活課題により十分に食事をとることのできない子ども向けの食事サービスを実施していく。

３　本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

・「『いじめ』『差別』を絶対に許さない学校」を目指して、昨年来のいじめ事案への対応のみならず、その他の事案に対しても、教職員間の情報共有と組織的対応を進めるべく、「いじめ防止対策委員会」を「いじめ不登校対策委員会」と改称すると共に、組織の有機化を図り、迅速かつ丁寧な対応に努めることができた。

・不登校生徒数や遅刻生徒数の増加に歯止めをかけるには、至っていないが、生活保護世帯生徒が２０％、就学援助受世帯生徒を加えると５０％を超える実態を鑑みると、家庭に課題を抱えている生徒が多く、根本的な解決に向けた、より一層の関係諸機関と連携・連動した動きの構築が必要である。

・校内生活においては、一定の落ち着きを見せているが、生徒間トラブルや、学校のきまりを守れないことに対する指導について、当該生徒の心情や背景に迫りながら、うちなる人権意識や規範意識のさらなる醸成が必要である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・依然として、基礎的・基本的な部分における、学力面の課題が残っており、家庭学習を含めた、学習習慣の未定着が大きな要因と考えられる。そのためにも、第一義的には、各教員の授業力のさらなる向上が急務であるともに、ショートステップ教材の整備や、放課後補習等の学習習慣定着に向けた諸施策を継続させるとともに、さらなる質的向上を図っていきたい。

・生徒の「自尊感情」や「自己肯定感」の低さも、生活面のみならず、学力面での課題に起因すると考えられ、「学校享受感」も含め、生徒の内的な意欲や興味関心を高めることを、教職員全体の共通認識のもと、検討していかねばならない。

・本年度より始まった親子方式による「学校調理給食」や、２回実施することができた「学校保健委員会」など、生徒の心身ともの健康について、前向きに捉え、取り組むことができた。ただ、残食率の高さや受診率の低さを解消するためにも、より一層の取組が必要である。

・学力向上の基盤となる、生徒の「生活向上」に焦点を当て、保護者・地域・関係諸機関と連携及び連動した新たな取組を検討していかねばならない。

（様式２）

大阪市立矢田中学校　平成２９年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ○　平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。 ○　平成 29 年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 ○　平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 ○　平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 学校の年度目標 ○　平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活が送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成 28 年度より 2%向上させる。 ○　平成 29 年末に時点で校内調査において遅刻の生徒の割合を、昨年度より 5%削減させる。 ○　平成 29 年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を毎年 100%とする。 ○　平成 29 年度の学校評価保護者アンケートの「学校の教育方針をわかりやすく伝えている。」の項目の肯定的な意見を示す割合を 65%以上にする。 ○　校舎の1階部分を地域開放スペースとして、土曜寺子屋や、放課後学習会、子ども食堂などに積極的に利用し学校の課題解決に活用していく。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 校内の安全・安心の確保のため、教職員の巡視や、予算が許せば必要か所に見守りカメラの設置し、「いじめ」の未然防止と早期解決に努める。	B
指標：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活が送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成 28 年度より 2%向上させる。	
取組内容②【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 校内の安全・安心の推進のため、朝に心を和ませる音楽を流すシステムをとりいれ、生徒の情緒の安定をはかり、問題行動の未然防止や優しい人間関係づくりにつなげる。	B
指標：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活が送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成 28 年度より 2%向上させる。	

取組内容③【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 校内で生徒が一息つける場所として、トイレの環境整備を進める。まず手始めとして、多目的トイレ（障がい者用トイレ）にウォシュレットを付ける。 指標：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「この学校は、安心して学校生活が送られる。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を平成 28 年度より 2%向上させる。	B
取組内容④【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 矢田中学校、「いじめ」「不登校」問題への取組の指針を作成し、「いじめ防止」「不登校」対策委員会を、毎月開催し、不登校の生徒の対策を推進する。 指標：平成 29 年末に時点で校内調査において不登校の生徒の割合を、昨年度より 5%削減させる。	B
取組内容⑤【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 矢田中学校、「いじめ」「不登校」問題への取組の指針を作成し、「いじめ防止」「不登校」対策委員会を、毎月開催し、「いじめ」問題の重篤化を防ぐ。 指針：平成 29 年度のいじめアンケートで、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を 100%にする。	A
取組内容⑥【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 「いじめ」アンケートを毎学期実施し、それに合わせて教育相談を行い、「いじめ」の早期発見と未然防止、合わせて、虐待の早期発見と早期対等に務める。 指針：平成 29 年度末までの校内と地域で把握された児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を毎年 100%とする。	B
取組内容⑦【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 生徒の生活アンケートを実施し、家庭地域と連携して生徒の生活課題の解決に努める。 指標：平成 29 年末に時点で校内調査において遅刻の生徒の割合を、昨年度より 5%削減させる。	B
取組内容⑧【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】 矢田中学校防災リーダーを設立し、南海トラフ大震災や上町断層地震に備えて防災意識を高めていく中核とする。 指標：防災訓練を年間３回以上実施する。	B
取組内容⑨【施策２：道徳心社会性の育成】 教職員にカウンセリングマインドやアセスメント能力を向上させる研修や、実践交流を積ませ、生徒の指導力の向上にあたるとともに、本年度中に校務支援システムの「いいとこみつけ」の運用を開始する。 指針：平成 29 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 64%以上させる。（28 年度 62.8%）	C
取組内容⑩【施策２：道徳心社会性の育成】 道徳の教科化に向けて週 35 時間の道徳授業の実践と、年に 1 回以上の公開授業を実施する。 指針：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。	B

取組内容⑪【施策２：道徳心社会性の育成】 矢田７校の取組に連帯し、すべての取組に主体的に参加する中で、差別を許さない、世界の人と手をつなぎあえる人材形成に努める。 指標：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。	B
取組内容⑫【施策２：道徳心社会性の育成】 近隣の障がい者活動センターなどと連携し、特別支援教育の進化充実をはかり、生徒すべてにユニバーサルマインドを身に着けさせる取組を推進する。 指標：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。	B
取組内容⑬【施策２：道徳心社会性の育成】 １年生でＳＰトランプによる職業適性判断とプロによる職業講話、２年生で職場体験学習を実施する。３年生では進学希望高校の事前訪問を実施し、適正なキャリア教育を行う。 指標：平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小・中学校）

○ 認知件数は、21 件で、すべての事案において、重篤化を防いでいる。【A】

○ H28→83%／H29→82%　となって、前年度比-1%となったが、「当てはまる」だけでは+4%だった。【B】

○ H28→2 人／H29→1 人　となって、前年度比-1 人となった。【A】

○ H28→2.83%（不登校 20 名、うち新たな不登校 7 名）／H29→3.48%（不登校 26 名、うち新たな不登校 8 名）　となって、前年度比+0.65%となった。【C】

学校の年度目標

○ H28→71%／H29→79%　となって、前年度比+8%となった。【A】

○ 生徒一人当たりの遅刻回数が　H28→9.64 回／H29→11.71 回　となって、前年度比+21.5%となっている。【C】

○ すべてのケースにおいて、各方面と連携しながら対応を行っている。【B】

○ H28→68%／H29→86%　となって、前年度比+18%となった。【A】

○ １階部分の開放化は実現できていないが、「学習塾なでしこ」を誘致することができた。【B】

取組内容

① 教職員の巡視を継続し、「いじめ」の未然防止と早期解決に努めた。平成２９年度の学校評価アンケートにおける「安心して学校生活が送られる」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合が平成２８年度より８％向上した。

② 心を和ませる音楽を流すシステムはとりいれてはいないが、教師が休み時間や昼休みの巡視などで生徒とコミュニケーションをとることで、問題行動の未然防止や優しい人間関係づくりにつなげている。

③　トイレの環境整備については、校舎北西部トイレの改修設計が始まっており、学校評価アンケート「安心して学校生活を送れる」の肯定的回答が昨年度比で８％向上した。

④　「いじめ防止・不登校対策委員会」を２ヶ月に１回定期的に開催し、必要に応じて臨時で開催している。

⑤　「いじめ」の早期発見に努め、重篤化を防げている。また、学校で認知したいじめについても解消に向けて対応している。

⑥　毎学期「いじめアンケート」を実施し、それにあわせて教育相談を行い、「いじめ」「虐待」の早期発見と未然防止ができた。

⑦　生徒の生活課題の解決には至っていないが、担任や学年担当などが本人と話をしたり、保護者と話をしたり、家庭訪問などをして解決に向けて取り組んでいる。遅刻の割合は昨年度より約２％増加していて、なかなか減らない状況である。

⑧　防災訓練を３回以上実施し、そのうち１回は地域と一緒に取り組んだ。また火災訓練では職員が１１９番通報や誘導、初期消火の演習、生徒も初期消火の演習を実践することで防災意識が高められるよう努めた。

⑨　教職員向けの研修は実施したが、「いいとこみつけ」の運用はできていない。また全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合が昨年度より２２％低かった。また全国と比較すると３１％低かった。

⑩　6B の道徳推進拠点校として、校内研修と公開授業を実施した。学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目について肯定的な回答が昨年度より 5%上昇した。

⑪　年間計画に基づいて人権学習を実施。学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目について肯定的な回答が昨年度より 5%上昇した。

⑫　近隣の障がい者活動センターなどと連携し、障がい者問題学習や性教育といった取組みを推進することができた。

⑬　1，2 年生では、SP トランプや職場体験学習などを通し、将来の自分を考える良い機会となった。今後も引き続き取組を進めていきたい。

次年度への改善点

全市共通目標（小・中学校）

○　「いじめ不登校対策委員会」をより有機化させ、未然防止・早期発見・早期解決に努め、重篤化を防ぐように、組織的対応を強化させる。

○　生徒の内的な規範意識を醸成させる手立てを考える必要があり、保護者や地域との共通認識や連携も進めていく。

○　前年度に比べ、軽微な事象も含めて、発生件数は減少しているが、引き続き、「暴力を否定する」という共通認識のもと、生徒に心情に寄り添いながらの指導が必要である。

○　引き続いて、個々のケースに対する、根本的な原因に迫りながら、関係諸機関との連携も含めて、対応にあたっていく必要がある。

学校の年度目標

○　引き続き、「安心・安全な学校」を目指していく必要がある。

○　常習化している生徒に対して、保護者とも連携しながら、個々の課題に応じた対応が必要である。

○　引き続いて、生徒から発せられるサインに敏感に反応しながら、個々のケースに対応していく。
○　学校ホームページや各種通信文書といった伝達媒体のさらなる充実はもちろんのこと、行事の公開など、より「開かれた学校」作りに努める。
○　引き続き、関係諸機関との連携の上、有効活用を図っていく。

取組内容

①　次年度も教職員の巡視を継続し、「いじめ」の未然防止に努める。また教職員間の連携を密にし、早期解決に努める。
②　次年度は生徒会活動の一環として、登校時や昼食時などに心を和ませる音楽を流すシステムを取り入れる計画を立てる。
③　校長経営戦略支援予算等を活用し、よりよい環境整備に努める。
④　「不登校生徒」の個々の問題に対してどのように解決していくかを考え、担任・学年保健主事、スクールカウンセラーらと連携し、「不登校生徒」が少しでも登校できるように努める。
⑤　次年度も学校で認知したいじめについて、学年、スクールカウンセラー、保健主事、生徒指導主事、管理職が連携を取り重篤化を防いで行く。
⑥　次年度も継続して「いじめアンケート」を実施し、教育相談では子どもたちの話をじっくりと聞いて、「いじめ」や「虐待」の未然防止と早期対応に努めていきたい。
⑦　次年度に向けて、個々の生活課題を見つめ直し、解決に努める。また、生徒会活動などで呼びかけたり、保護者と連携したりして、遅刻の割合を今年度より減らしていく。
⑧　次年度も地域防災や避難訓練を実施し、内容の充実化を図りたい。
⑨　生徒たちの自尊感情を高めるために、個々が抱える問題の解決に努める。
⑩　教科化されることを視野に入れ、週 35 時間の授業実践を想定した取組み方も工夫しなければならない。
⑪　生徒並びに教員の人権意識を高める必要がある。また人権教育に今年度の時数を確保することは厳しくなるので、抜本的な改革が必要である。
⑫　障がい者問題学習や性教育の取組み内容を見直し、今の子どもたちに必要なことや何を学ばせたいのかを検討する必要がある。また、性教育では、『LGBT』に取り組む必要がある。取組み内容が重ならないように小学校との連携も必要である。
⑬　次年度は、ゲストティーチャーや職場体験など、開かれた学校づくりのために、地域とのかかわりをもう少し広げていく必要がある。

（様式２）

大阪市立矢田中学校　平成２９ 年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ○ 平成 29 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。 ○ 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率３割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より５ポイント減少させる。 ○ 平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率６割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より５ポイント増加させる。 ○ 平成 29 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より２ポイント向上させる。 学校園の年度目標 ○ 平成 29 年度の全国学力・学習状況調査において、「自分には良いところがあると思いますか」の項目で肯定的な意見を示す生徒の割合を 64%以上（28 年度 62.8%）にする。 ○ 平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「学校では、人権を尊重し、大切にする心と態度を育てるため、様々な人権について学ぶ機会がある。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。 ○ 平成 29 年度の学校評価アンケートにおける「自分は、将来の夢や目標を持っている。」の項目の肯定的な考えを示す生徒の割合を 28 年度より 2%向上させる。 ○ 平成 29 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 29%以上にする。 ○ 平成 29 年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。 ○ 平成 29 年度末までの校内調査においてむし歯の受診率を昨年度より 5%向上させる。 ○ 平成 29 年度の年度末までの校内調査において給食のアレルギー事故を０とし、残食量をできるだけ少なくする。 ○ 区役所や民間の塾と提携して、社会開放スペースを利用おいて、休日や放課後に塾代助成を活用した取組を実施していく。 ○ 地域、保護者と連携し、社会開放スペースを利用して、子ども食堂など、生活課題により十分に食事をとることのできない子ども向けの食事サービスを実施していく。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ホームページを毎日更新して、来訪者を昨年度の５０％増以上とする。 指標：ホームページの来訪者数が昨年度より増加している。	A
取組内容②【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み】 全教員が、年間２回以上の研究授業を行い、年間２回以上の全体授業研究を行う。 指標：実施回数公開授業各人２回　授業研究会２回を実施する。	B
取組内容③【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み】 全教員が、年間 2 回の研究のうちの 1 回はＩＣＴを活用して行う。全体研究会のうち 1 回は、ＩＣＴ活用をテーマとして行う。 指標：タブレットの稼働率を 10%向上させる。	C
取組内容④【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み】 各学年の学年室と図書室の、自学自習、基本学習のためのショートステップ教材を整理し、朝学習、放課後学習、補充学習を推進する。 指標：各学年年間の学習会を 50 回以上とする。	B
取組内容⑤【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み】 区役所や民間の大型学習塾と連携し、土曜寺子屋と放課後学習会の場を 1 階開放スペースに設立し、学力向上の取組を推進する。 指標：塾代助成の執行率を 50%以上とする。	A
取組内容⑥【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み】 学校長戦略支援予算等を活用して、将来のアクティブラーニングにつなげるためのＩＣＴ機器の整備に努める。 指標：普通教室の、プロジェクターの黒板上への設置と、画像転送装置の一体化、スクリーンの黒板左隅への設置を 100%完成させる。	B
取組内容⑦【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み】 5 教科を中心に宿題等を計画的に立案し生徒の家庭学習をコーディネートする。 指標：全国学力・学習状況調査で、「家で学校の授業を復習していますか」の肯定的な回答が前年度を上回るようにする。	C
取組内容⑧【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（国語科）】 基礎学力の定着、家庭学習の習慣を身に着けさせるために、宿題、小テスト、本読み、暗唱、視写などの学習を繰り返し行う。 指標：定期テストにおける漢字の平均正答率を 70%以上にする。	C
取組内容⑨【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（数学科）】 基礎学力を定着させ、家庭での学習の習慣を身に着けさせるため、授業では、小テストを行い、課題をこまめに点検するようにしている。また、ICT 機器(ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ、ｽｸﾘｰﾝ、ﾀﾌﾞﾚｯﾄ)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れている。 指標：各学年の数学の評価「数学についての知識・理解」の A 評価の割合を向上させる。かつ、C 評価の割合を減少させる。	C

取組内容⑩【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（社会科）】 基礎学力の定着ために宿題、確認テストを行う。また、ICT 機器(ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ、ｽｸﾘｰﾝ、電子黒板)を有効活用する。グループ学習も適宜取り入れていく。 指標：チャレンジテストにおいて、府平均に対してマイナス５ポイントを目指す。	B
取組内容⑪【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（理科）】 基礎学力を定着させるため、小テストの実施回数の増加、課題を適宜与えることによる家庭学習の習慣化を図る。また、学習意欲の向上のため、実験(生徒実験、演示実験)、観察を行う回数の増加、ICT 機器を活用した授業(画像、映像など)を行う。 指標：小テストを各学年、各学期に２回以上行う。 実験・観察を行う授業を、各学年、各学期に１回以上行う。	B
取組内容⑫【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（音楽科）】 曲ごとにノートにまとめ、基礎的な事柄をプリントで、徹底する。音楽鑑賞の時間を増やし、歌唱、アルト笛の演奏を楽しむ心情を養う。 指標：忘れ物を減らし、音楽を愛好する生徒を増やす。できなかった和楽器の使用を各学年１回は行う。	B
取組内容⑬【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（美術科）】 基礎基本の知識の定着を図るため、ノートを活用し小テストを行う。また、発想力を養うために実技として短時間スケッチを取り入れる。 指標：小テストを学期に１回以上行う。 短時間スケッチを学期に２回以上行う。	B
取組内容⑭【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（保健体育科）】 授業の最初の集合・整列・準備体操などのスタート時をしっかり取り組ませ、効率よく進む授業を作る。話を聞く態度を育成する。 指標：忘れ物を昨年度より減らし、毎回の授業で３人以下にする。また、水泳での見学を減らす。個々の技の習得や技能の向上により体育の楽しさを味わわせ、不得意な生徒が体育好きになる割合を増やす	B
取組内容⑮【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（技術家庭科）】 授業、実習などを通して、生きていくための技術や知識を、身につけさせるために実習の時間を増やす。 指標：実習の回数を増やし、事前に決めていた到達点を生徒に達成させる。	B
取組内容⑯【施策５　子ども一人一人の状況に応じた学力向上の取り組み（英語科）】 家庭学習を促すため毎回単語練習などの課題を出し、点検すると共に単語テストを実施し、反復練習につとめる。 指標：今年度すべての単語テストの平均を出し、正答率４割以下の生徒を同一の母集団で比較し、年度末において全学年で５％減少をめざす。	B
取組内容⑰【施策６　国際社会におけて生き抜く力の育成】 元気アップやＣ－ＮＥＴや地域指導員と協力して、「イングリッシュシャワー」や、「矢田英語村」などの英語教育（DO　ENGLISH）の推進を図る。 指標：平成 29 年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合を 29%以上にする。	B

取組内容⑱【施策７　健康や体力を保持増進させる力の育成】 体育授業の見学者を昨年より削減させ、部活動の組織率を昨年度より３％向上させる。 指標：平成 29 年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。	B
取組内容⑲【施策７　健康や体力を保持増進させる力の育成】 今年度、学校保健委員会を立ち上げ、年間２回以上実施する。 指標：平成 29 年度末までに校内調査におけるむし歯の受診率を昨年度より 5%向上させる。	A
取組内容⑳【施策７　健康や体力を保持増進させる力の育成】 給食委員会を定期的に開催し、給食の残食を減らすとともに、アレルギー事故を出さない取組を行う。 指標：平成 29 年度末までに校内調査における給食のアレルギー事故を０とし、残食量をできるだけ少なくする。	B
取組内容㉑【施策７　健康や体力を保持増進させる力の育成】 地域、保護やと連携し、社会開放スペースを利用おいて、子ども食堂など生活課題により、十分に食事をとることのできない子ども向けの食事サービスを実施していく。 指標：平成 29 年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査において、合計点が大阪市平均を下回らないようにする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小・中学校）

○ H28→85.4／H29→84.9 となって、前年度比-0.5 となった。【C】

○ ２年が H28→25%／H29→25%　となって前年度比±0%となり、３年が H28→24%／H29→31%　となって前年度比+7%となった。【C】

○ ２年が H28→33%／H29→35%　となって前年度比+2%となり、３年が H28→28%／H29→28%　となって前年度比±0%となった。【B】

○ H28→55.2%／H29→39.2%　となって、前年度比-16%となった。【C】

○ H28→46.42 回／H29→47.23 回　となって、前年度比＋0.81 回となった。【B】

学校園の年度目標

○ 4 月実施の全国学力・学習状況調査では、39.2%で、前年度比-23.6%と大きく減少したが、2 月実施の学校評価アンケートでは、46%に向上した。【C】

○ H28→62%／H29→67%　となって、前年度比+5%となった。【A】

○ H28→55%／H29→61%　となって、前年度比+6%となった。【A】

○ H28→24.4%／H29→45.6%　となって、前年度比+21.2%となった。【A】

○ H28→44.95／H29→43.18　となって、前年度比-2.77 となった。【C】

○ H28→13.4%／H29→23.9%　となって、前年度比+10.5%となった。【A】

○ アレルギー事故は０であったが、残食量は野菜を中心に多い。【B】

○ 10 月より、区役所と連携し、民間事業者を活用した「学習塾なでしこ」を開講し、約 40 名が受講している。【B】

○ 関係諸機関との調整を図ったが、実施には、至らなかった。【C】

取組内容

① ほぼ毎日の更新ができており、2 月 17 日現在での本年度来訪者数が、「11694」となり、昨年度来訪者数「5040」を大きく上回り、230%増となっている。

② 全教員が、年間 1 回以上の研究授業は行うことができたが、年次に関わる教員以外で 2 回以上の研究授業を行うことができなかった。全体授業研究に関しては、計画を大きく上回り、年間４回(7 月 5 日、8 月 31 日、9 月 25 日、1 月 29 日)実施することができた。

③ 今年度は、1 月までに 88 時間使用したので、稼働時間としては 12%程度向上している。ただ、稼働率（標準授業時数に対する割合）では、8.7%になり昨年度と比べて 1%の向上にとどまった。

④ 現在までに、1 年生は、65 回、2 年生は 50 回、3 年生は 75 回となり、当初の指標を達成できた。

⑤ 区役所と連携し、10 月から「学習塾なでしこ」を開講し、全校生徒比 17%ほどにあたる、約 40 名が受講している。

⑥ プロジェクターや授業用パソコン、タブレットの使用率は昨年度より増加したが、整備が不充分であった。

⑦ 前年度に比べて「マイナス 5.3%」となった。

⑧ 定期テスト漢字正答率を中間評価と 2 学期期末（３年は学年末を含む）を比較した。試行錯誤の結果、1-1：8%減、1-2：8%減、2-1：28%増、2-2：17%増、2-3：24%増、3-1：3%増、3-2：2%増となった。

⑨ 数学が苦手な生徒が多く、今年度も府平均や全国平均より大きく下回ってしまった。グループ学習や、テスト前の補習授業は有効だと感じている。

⑩ 基礎学力の定着ために宿題、確認テストを行った。また、ICT 機器(ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ、ｽｸﾘｰﾝ、電子黒板)を有効活用することができた。しかし、グループ学習は実施できていない。3 年生のチャレンジテストにおいては、府平均に対してマイナス 4.8 ポイントとなった。

⑪ 学習内容に合わせて、ＩＣＴ機器の有効活用、実験・観察を行うことで、生徒の理科に対する意欲・関心を向上させることができた。また、小テストの実施、課題を適宜与えることで基礎学力の定着を図った。

⑫ 1 年生は音楽コンクールを行い、文化祭では混声 3 部合唱を行った。3 年生は卒業式で混声二部合唱を楽しく練習している。鑑賞曲は各学年で学期に 2 回以上行った。和楽器は、締太鼓を使ってリズム打ちを楽しく行った。

⑬ 各学年、定期テスト前後に小テストを一回行うことができた。短時間スケッチを各学年、2 回以上行うことができた。

⑭ 規律ある授業を目指し、運動量を確保しながら展開できた。種目によって見学が増えるなど、1 回の授業で忘れ物が 3 人以上の場合が多い学年もある

⑮ 半数以上の生徒が授業内で実習を終えることが出来た。残りの生徒は補習などを行ない、予定内に完成させることが出来た。しかし進行速度に差があり、完成時期に差が出来た。

⑯ 単語テストの平均点は年度当初と直近のものを比較して、1･3 年生は下がったものの、2 年生は上がった。また、正答率 4 割以下の生徒は 1 年生で 9%減、２年生で 11%減であったが、3 年生では 23%増になった。

⑰ 校長経営戦略支援予算（加算配付）の確保ができなかったため実施できなかったが、夏休みに、区役所と連携した英語の特別学習会を実施した。本年度の英検ＩＢＡにおける、3 年生の英検 3 級以上のレベルに達している生徒の割合は、45.6%となった。

⑱ 部活動の組織率は、前年度が 75%だったのに対して、今年度は 72%となった。全国体力運動能力・運動習慣等調査の合計点が、43.18 となり、大阪市平均（45.14）を 1.96 下回った。

⑲　学校保健委員会を発足し、第１回を７月 13 日に実施し、第２回を３月 15 日に実施する準備をしている。第２回では生徒保健委員長の発表を予定している。むし歯の受診率は 19.2%（2 月 6 日現在）とやや上昇した。歯科検診の事後措置率が昨年度は 13.4%であったが、今年度は 23.2%（2 月 6 日現在）で、目標の 5%よりも改善された。

⑳　親子方式の給食に関する業務をトラブルなく行うことができた。食物アレルギーの事故は 0 件であった。

㉑　小学校や地域.ＰＴＡやフードバンクとの調整を実施したが、本年度は準備段階する。

次年度への改善点

全市共通目標（小・中学校）

○　家庭学習を含めた、学習習慣の定着に向けて手立てを検討する必要がある。

○　家庭学習を含めた、学習習慣の定着に向けて手立てを検討する必要がある。

○　「低位層の底上げ」に加えて、得意分野をより伸ばすための手立てを検討する必要がある。

○　新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」に対する、研究・研修体制の構築及び、実践が必要である。

○　部活動のみならず、さまざまな場面における運動機会を増やす必要がある。

学校園の年度目標

○　「自尊感情」や「自己肯定感」を向上させることを優先的課題として捉え、その共通認識のもと、さまざまな取組を実施していく必要がある。

○　これまでの人権教育体制や内容を見直し、本校の課題や状況に応じた形へと変容させていく。

○　キャリア教育のより一層の充実を図り、「自尊感情」「自己肯定感」の向上と合わせて取り組んでいかねばならない。

○　部活動のみならず、さまざまな場面における運動機会を増やす必要がある。

○　保護者を巻き込んだ、保健指導のさらなる充実が必要である。

○　「食育」の観点をふまえた、給食指導のあり方を模索しなければならない。

○　引き続き、関係諸機関との連携の上、有効活用を図っていく。

○　さまざまな生活課題を抱えた生徒に対応できるように、地域・保護者・関係諸機関との連携や情報交流を、より密にしていき、新たな取組を考えていく。

取組内容

①　稼業日ベースでの来訪者数平均が 50 名程度であるので、本校の広報機関の一つとして、より周知を図るとともに、内容の充実を進めていきたい。

②　全体授業研究を伴う授業以外の研究授業では、時間割の関係や生徒指導などであまり参観者が集まらないこともあった。次年度は、より多くの教員に研究授業を参観していただけるように、日程の設定、参観者の呼びかけを行っていく。

③　タブレットの使用を活性化するためには、設備の充実ももちろんであるが、使用する際の操作方法の研修や授業プランの提示、生徒への事前の技術指導などが必要である。

④　ショートステップ教材は整備されたが、その運用に関しては各学年で差があるようである。今後は、効果的に教材を活用できるような仕組みが必要である。

⑤　家庭学習習慣の定着に向けて、新たなしかけづくり。

⑥　予算のめどを立て、3 年計画で設置していくようにする。授業パソコンが一部の教科でのみ使用されているので、その有用性を広めていけるようにする。

⑦　宿題のコーディネートを積極的に行い、家庭での学習習慣の定着を目指したい。

⑧　漢字学習、小テストを授業で継続して行う。小テスト前に数分の学習時間を設け、学習習慣を身につけさせる。

⑨　それぞれの進度に合わせた形で授業や補習を工夫するなどの必要がある。

⑩　グループ学習を積極的に取り入れていきたい。

⑪　引き続き、ＩＣＴ機器の有効な活用法、実験・観察の授業の取り入れ方などについて考え、生徒が意欲・関心をもって理科を学べるようにする。また、小テスト・課題などを用いて、基礎学力の定着を図っていく。

⑫　音楽を愛好する生徒を増やすため、教材研究の充実や精選に努める。未使用になっているギターの整備を行う。忘れ物指導を引き続き行う。

⑬　基礎基本の定着を図るためには、小テストの回数も増やしていく必要がある。短時間スケッチは単元によっては効果があるため、描くテーマに工夫をしていく必要がある。

⑭　運動量を確保し、運動の楽しさを味わわせながら今年度以上に規律ある授業を目指す（忘れ物、見学者の減少）。

⑮　十分な実習時間を確保することが必要である。授業への興味・関心を高める工夫を行い、更なる基礎力の向上を図りたい。

⑯　継続して単語テストを実施し語彙力を高めていけるよう努める。そのために、単語練習に取り組む時間をとる・課題を出すなどを行う。3 年生に関しては単語数も増え、内容も難しくなるので、こまめに点検・テストを繰り返していく。

⑰　支援予算が確保できなかった時の、手立ての検討。

⑱　来年度も大阪市平均を上回ることを目指す。

⑲　保護者や地域との連携により、生徒の基本的な生活習慣の習得と、健康に生きる力の育成に取り組む必要がある。歯科検診について依然 4 分の 3 以上事後措置していないので、保護者の理解協力を得て歯・口の健康を守る力をつける活動をすすめる必要がある。

⑳　安全な給食の配膳や食べ方について生徒に徹底する必要がある。給食に関する業務について役割分担を考える必要がある。生徒が健全に成長できるように、教職員で食育を推進して行く必要がある。

㉑　来年度以降地域と連携して必要な形を検討し実施していきたい。

（様式３）

平成２９年度　　学校関係者評価報告書

大阪市立矢田中学校協議会

１　総括についての評価

・学校総体として、さまざまなことにチャレンジし、個々のケースに応じた丁寧な対応をしていることから、全体的な落ち着きがみられ、安心・安全な学校へ歩んでいることが分かる。
・基本的生活習慣の確立が急務であり、さらなる家庭や地域、そして、校区小学校との連携が必要である。

２　年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現
・より一層、家庭との連携を深めて、子どもたちの基本的な生活習慣の確立に努めていただきたい。 ・子どもたちの心情への寄り添いを、継続してもらい、心のつながりの中から、子どもたちにとっての安心・安全な学校を目指してもらいたい。
年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上
・子どもたちの「やる気」が、すべての取組への基礎となるので、高めるための、より一層の努力をしてもらいたい。 ・子どもたち個々が「自信」のもてるものを何か１つでも持たせられることから、学力や体力の向上につなげていただきたい。
・ ・ ・ ・

３　今後の学校園の運営についての意見

・基本的な生活習慣の確立に向けて、保護者への啓発活動を、より推進していただきたい。
・子どもにとって「楽しい」学校を目指して、これまで築いてきた関係性を大切にしながら、新しいことにチャレンジしてもらいたい。